

静岡英和学院大学短期大学部・食物栄養学科の卒業後状況調査

Survey of post-graduation status of the Department of Food Science and Nutrition, Shizuoka Eiwa University Junior College.

庄 司 豊、望 月 裕 子

要約

目的： 本学科の卒業生は栄養士の資格を生かした就職をする者が多い。しかし、卒後の仕事への満足度、卒業生が本学科に望むことなどについては調査がされていない。本研究では本学科の卒後調査を行い、今後の教育・研究や学科運営、学生募集に生かしていきたいと考えている。

方法： 2018年から過去21年間の食物栄養学科卒業生（1063名）を対象とし、卒業後の就職状況・転職・取得資格・本学への印象などについてのアンケートを行った。上記1063名の卒業生にアンケート依頼のハガキを郵送し、29名の宛名不明を除き1034名を本アンケートの母数とした。このうちアンケート回答者は114名であった（回収率11.2%）。回答者から女性109名に対してアンケート内容について検討した（全回答の96%）。自由筆記で行った本学科への改善点などのアンケートはChat GTP3.5を用いて、その要約を示した。

結果： 回答者109名のうち、卒業後88.1%が静岡県在住、88.1%が正規雇用、60.6%が栄養士資格を必要とする仕事に就職した。卒業後70.6%が転職経験あり、2022年度時点で46.6%が栄養士資格を必要とする業種に就職していた。109名の初職満足度は5点満点の2.99であったが、栄養士資格を必要とする初職満足度は2.74と低かった。その理由としては心身の負担が多いこと、収入が低いことなどが考えられた。しかし、転職することで仕事に対する満足度は有意に上昇した。さらに、84.4%が2022年時点で栄養士の資格取得に満足していた。一方、栄養士以外の民間資格取得に関しては、資格取得に満足しているとの回答した者はごく少数であった。また、84.4%が本学科を卒業して良かったと回答を得た。

考察： 栄養士資格を必要とする初職についての卒業生の仕事に対する満足度は低く、その大多数が委託給食などを業務とする初職であった。学生にはより多業種の選択肢や可能性を示す必要があると思われる。資格に関しては、国家資格である栄養士に対する信頼感が強く表れていた。また、自由筆記の結果から、本学の特徴や長所が分かりづらく、同時に良い広告戦略やブランディングがされていないために卒業生の中にも本学科に対してマイナスな印象を持たれていることが示された。

1. 研究背景および目的

将来的には、少子高齢化による就学生の減少が進み、それに伴い私立大学の統廃合が進む可能性が高まっている。2023年9月1日の大学ジャーナルONLINEの記事によれば、2023年度の私立短

大の入学定員充足率は過去最低の72.0%となり、私立短大276校のうち254校が定員割れしており、前年度比で6.3ポイント増の92.0%と報告されている(1)。静岡英和学院大学短期大学部（以下、本学）・食物栄養学科（以下、本学科）もその例に漏れず、定員充足率は70%前後を推移しており、今後の指針によっては存続が難しくなる可能性がある。このような背景から、筆者らは今後の学生にとってより魅力的で需要に合った学科を構築するために、本学科の特徴や利点、欠点を調査したいと考えた。本学院は130年以上の歴史を有し、本学科も開学54年を迎えたが、これまでに卒業後アンケートによる調査や評価は行われていない。また、本学科は栄養士養成施設であり、栄養士の養成がその中核をなしている。しかし、栄養士資格を取得した卒業生がその資格をどのように活用しているのかは不明である。さらに、卒業生からの本学科への意見やフィードバックはこれまでに少なく、卒業生の視点からの本学科の特徴や利点、欠点を知ることがなかった。本研究では1998年から2018年までの21年間に卒業した学生を対象にアンケート調査を行い、その結果を分析し、①基本データ、②栄養士資格と仕事満足度、③卒業生からの本学科への提言について考察し、本研究を通じて本学科の特徴や将来のニーズについて手がかりを得ることを目的とする。

2. 研究方法

アンケートは、1998年から2018年までの21年間に本学科を卒業した学生を対象とした。調査対象者の住所および氏名は、本学総務部のデータを元に送付ハガキを作成した。アンケートはGoogleフォームを用いて作成し、ハガキ裏面にはアンケートの説明文、URL、およびQRコードを掲載した（図1）。ハガキは1063通分作成し、2022年11月中旬に発送し、アンケートの締め切りは2022年12月末とした。回答率向上のため、20名に2000円のAmazonギフト券を抽選でプレゼントすることを明記し、ギフト券に関する抽選および送付は2023年2月までに完了した。アンケート内容の詳細については、図1のQRコードを参照。アンケートは合計38項目から構成され、そのうち7項目が「(1)基本データ（個人情報に関連）」、12項目が「(2)栄養士資格と仕事満足度」、19項目が「(3)卒業生からの本学科への提言」に関連している。これらの質問の結果に基づき、アンケートの解析を行った。また、自由記述の回答については、CHatGPT-3.5を用いたテキストマイニング手法を用い、その結果を要約した。

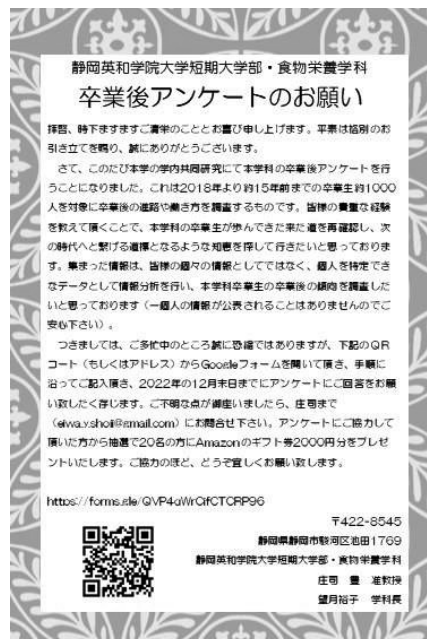


図1. 卒業アンケートのお願い

3. 結果および考察

3-(1) 基本データ：アンケート回収率：1063名にハガキを送付し、29通が宛先不明で返却された。これより今回のアンケートでは1034名にハガキが届いていたと考え、これをアンケート通知の母数とした。これから114名がアンケートに参加し、回答率は11.0% (114/1034) であった。2020年度に行われた静岡県立大学の卒後調査（対象者2017年度～2019年度卒業者1823名）では31.3% (570名) の回収率であった(2)。この調査では卒業後数年の学生が対象になっている点で本研究とは異なる。本研究では卒業後数年の学生（2019年から2021年卒業生）は対象となっていないが、これは本学キャリア支援課が別の方法で既に卒後アンケートを実施しており、これら年代を今回のアンケートから除外したためである。2021年度立命館アジア太平洋大学卒業後調査では、卒業後5年、10年、15年にあたる2016年度卒業、2011年度卒業、2006年度卒業の合計3393名のうち、大学が卒業後のメールアドレスを把握している2411名から卒後調査を行い、回答率は9.9%であった(3)。本研究は立命館のケースに近く、ほぼ同等の回答率を得られている。卒業後調査を用いて大学教育とキャリアの繋がりを解明することに取り組んだ『PROG白書2021』のデータでは、全国13大学全体の卒業後調査の平均回収率は13.2%だった。このデータにおいて同じ調査方法をとった12大学で比較すると、その回収率は7.6%から40.4%とバラつきが見られた。回答率に相関するか要素を検証したところ、大学入学時点の「第1志望の割合」が最も高い相関を示した（相関係数 $r=0.83$ ）。40.4%の回答率を示した大学の「第1志望の割合」は80%を超えており、回答率10%前後の大学での「第1志望の割合」は60%台後半から40%台前半と相関が見られなかった(4)。本研究の卒業後調査の回収率に関しては上記13大学の平均値とほぼ同等の結果となった。

今回の回答者は114名のうち4名が男性、1名が回答されていなかった。男女混合の場合、公開されている比較データが少なくなるため、本実験では女性109名での解析を行った（本学科が共学になったのは2002年から）。回答者の年齢層は20-24歳が5名、25-30歳が36名、31-35歳が19名、36-40歳が16名、41-45歳が28名、46歳以上が5名であった。20-24歳の群が少ないのは該当学年が1学年しかないためと考えられる。今回の対象群（1998年から2018年までの21年間に本学科を卒業した学生）は、ストレートに進学した場合の最高年齢が45歳になる計算になる。46歳以上に関しては、正確な情報がないためあくまで推測になるが、入学年齢が高かったのではないかと考えている。各学生が卒業年に20歳だったと仮定して計算すると各年齢層の回答率は、20-24歳が8.3% (5/60: 回答者数/卒業者数)、25-30歳が11.4% (36/317)、31-35歳が9.5% (19/199)、36-40歳が7.8% (16/204)、41-45歳が9.9% (28/283) となった（46歳以上は母数がわからないので考慮せず）。各年齢層の回答率は10%前後となっており、大きな偏りはなかった。

配偶者の有無および現住所：配偶者のある者は63.3%、配偶者なし（離死別含む）は27.5%、回答無しが9.2%であった。109名の現住所は静岡県88.1% (96名)、関東地区7.3% (8名)、中部地区1.8% (2名)、関西地区0.9% (1名)、中国地区1.8% (2名) であった。入学時はほとんどが静岡県在住者であり、卒業後も静岡県に在住されている者が多いことがわかった。

3-(2) 栄養士資格と仕事満足度：栄養士資格と仕事満足度を調べるにあたり、本研究では下記①～⑩の内容について質問した。これらの質問をベースに、栄養士資格と仕事満足度について検討した（女性109名を対象）。

- ① 本学科卒業後の進路について教えてください：就職（正規雇用）が96名（88.1%）、就職（非正規雇用）が8名（7.3%）、パート・アルバイトが3名（2.8%）、進学が2名（1.8%）となった。
- ② 卒業後についた仕事（初職）は栄養士免許が必要な仕事でしたか？：はいが66名（60.6%）、いいえが43名（39.4%）となった。
- ③ 初職の業種を教えてください：委託給食・給食関連業（保育園なども含む）55.0%（60名）、食品製造・品質管理業 15.6%（17名）、医療・福祉業（給食は含まない）8.3%（9名）、保健・金融 3.7%（4名）、宿泊・飲食サービス業 3.7%（4名）、教育・研究 2.8%（3名）、事務 2.8%（3名）、商品開発（食関連）1.8%（2名）、卸売業 1.8%（2名）、その他 4.6%（5名）。
- ④ 初職の満足度を教えてください：仕事の満足度は、被験者が1から5の数字を選ぶ形とし（高得点のほうが満足度が高い）、その平均点を示した。全体の初職満足度は2.99（109名）で、そのうち栄養士資格を必要とする仕事（栄養士職）の初職満足度は2.74（66名）であった。一方、栄養士資格を必要としない一般職の初職満足度は3.37（43名）であった。この2群間の初職満足度の平均値には統計学的な有意差があった（t-test： $p<0.005$ ）。このことから、初職に栄養士職についた人は一般職と比べて初職の満足度が有意に低いことがわかった（図3）。栄養士職の業種内訳は、委託給食・給食関連業（保育園なども含む）86.4%（57名）、医療・福祉業（給食は含まない）7.6%（5名）、食品製造・品質管理業3.0%（2名）、商品開発（食関連）1.5%（1名）、教育・学習支援業1.5%（1名）であった。
- ⑤ 転職歴はありますか？：栄養士職66名のうち、転職者は78.8%（52名）、未転職者19.7%（13名）、退所後無職が1.5%（1名）であった。一般職43名では、転職者は58.1%（25名）、未転職者34.9%（15名）、退所後無職が7.0%（3名）であった（図3）。全体（109名）の転職率は70.6%、未転職率25.6%、退職率3.6%となった。
- ⑥ 新卒から何年目で転職されましたか？：栄養士職で転職された52名のうち、3年目までに転職が55.8%（29名）、4～6年目に転職が25.0%（13名）、7年目以降が19.2%（10名）であった。一般職で転職された25名のうち、3年目までに転職が72.0%（18名）、4～6年目に転職が16.0%（4名）、7年目以降が12.0%（3名）であった。一般職のほうが転職が早い傾向がある。栄養士職は、卒業後3年以上の実務経験により管理栄養士国家試験資格を得られるため、一般職よりも転職が遅くなると推測される。
- ⑦ 転職、退職した理由はなんですか？（複数回答可）：この質問は選択肢の複数選択と自由筆記で回答を求めた（選択肢は図2参照）。この結果を図2.に示す。栄養士職の転職理由は「(1)精神的・肉体的に負担が大きいから」が42.3%で最も多く、ついで「(2)収入が少ないから」の

30.8%、「(3)結婚・出産したから」が25.0%となっている。一般職の転職理由は栄養士職と同じく「(1)精神的・肉体的に負担が大きいから」が28.0%で最も多かったが、栄養士職ほどその割合は顕著ではなかった。ついで「(4)人間関係が上手くいかなかったから」が24.0%、「(7)その仕事が自分にあわなかった」が20.0%となっている。栄養士職と一般職での比較では、栄養士職は精神的・肉体的に負担が大きく収入が少ないことが主な転職理由となっていることが推測される（図3.）。特に「(2)収入が少ないから」は栄養士職30.8% 対 一般職8.0%と大きな隔りがある。また、栄養士職の転職理由として「(9)社会的評価が得られにく仕事だったから」が11.5%あるが、一般職は0%であった。このことから、栄養士職が社会から評価を受けていないと感じている転職者が一定数いることが推測される。栄養士職の転職理由の傾向をまとめると、精神的・肉体的に負担が大きいわりに収入が少なく、社会的にその働きが評価されていないことが考えられる。

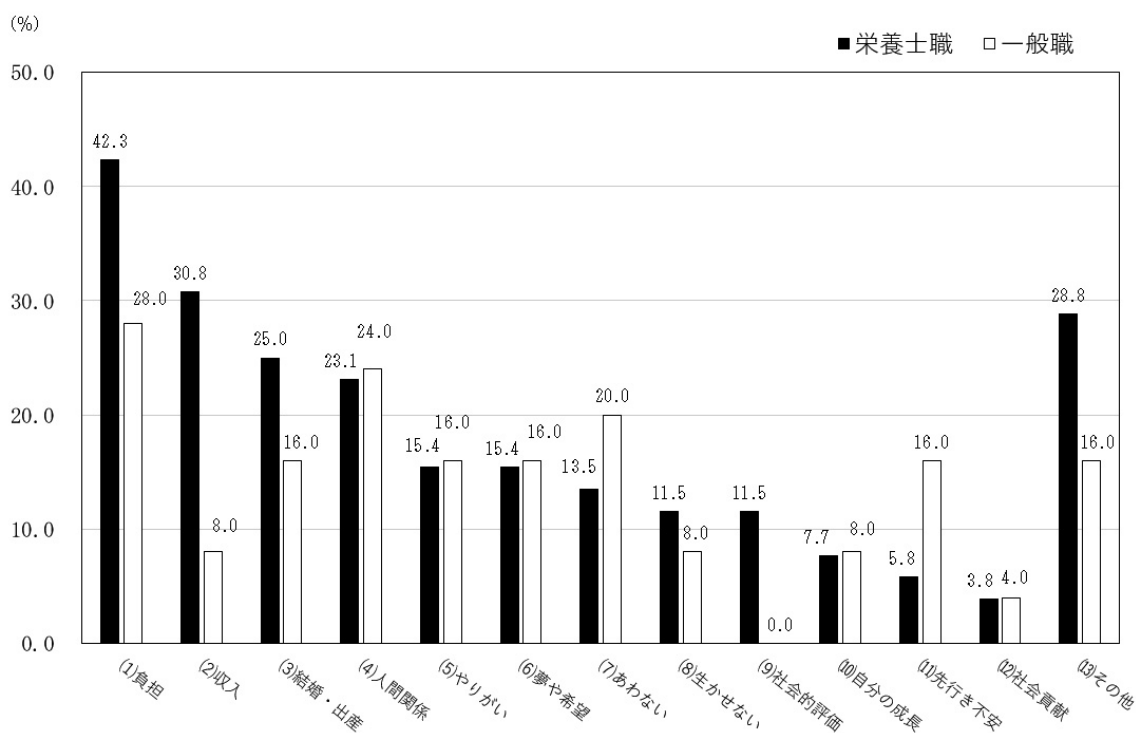


図2. 転職理由

栄養士職、一般職で転職理由について集計した（複数回答可、回答数を回答人数で割り百分率で示す）。(1)精神的・肉体的に負担が大きいから (2)収入が少ないから (3)結婚・出産したから (4)人間関係が上手くいかなかったから (5)やりがいを感じられなかった (6)自分の夢や希望がかなえられる仕事ではなかったから (7)その仕事が自分にあわなかった (8)自分の知識や技術を生かせない仕事だったから (9)社会的評価が得られにく仕事だったから (10)自分の成長を感じることができなかったから (11)その仕事の先行きが不安であったから（会社の倒産など） (12)社会や地域への貢献を感じられなかったから (13)その他

- ⑧ 転職されて収入は増えましたか？：転職した77名のうち、転職後に収入が増えた40.3%（31名：満足度4.03）、やや増えた16.9%（13名：満足度3.38）、変わらない23.4%（18名：満足度3.11）、

やや減った9.1%（7名：満足度3.43）、減った10.4%（8名：満足度3.25）という結果であった。転職後に収入が増えた者は仕事に対する満足度が高いことがわかった。ただし、収入がやや減った、減った者で顕著な仕事への満足度の低下が見られてないことから、収入以外にも転職によって得られる仕事への満足感があると考えられる。

- ⑨ 転職後の満足度：栄養士職で転職した52名の転職前満足度は2.50であったが、転職後には3.63と上昇した。この52名のうち、転職後も栄養士職についたのは30名で、一般職に転職したのは22名であった。一般職で転職した25名の転職前満足度は3.0で転職後は3.41に上昇した。また、一般職から6名が栄養士職に転職し、19名が別の一般職に転職した。転職した77名のうち、栄養士職に就いたのは36名で満足度は3.66、一般職に就いた41名の満足度は3.48であった。これらの結果から、転職することによって仕事への満足度（平均値）は上昇すると言える。アンケートを取った時点で、栄養士職は49名で満足度は3.55、一般職は56名で満足度は3.39となった。一般職の満足度は初職で3.37、転職後は3.39と大きな変化が見られなかった。一方、栄養士職に関しては、初職において2.74と低い満足度であったが、転職を機に栄養士職を望まない者は一般職に移り、栄養士職を望む人が初職より納得いく条件で働けるようになったのではないかと推測する（図3.）。
- ⑩ 現在も栄養士免許を必要とするお仕事をされていますか？：現在仕事をされている105名のうち、栄養士職は46.6%（49名）、一般職は53.3%（56名）であった（図3.）。

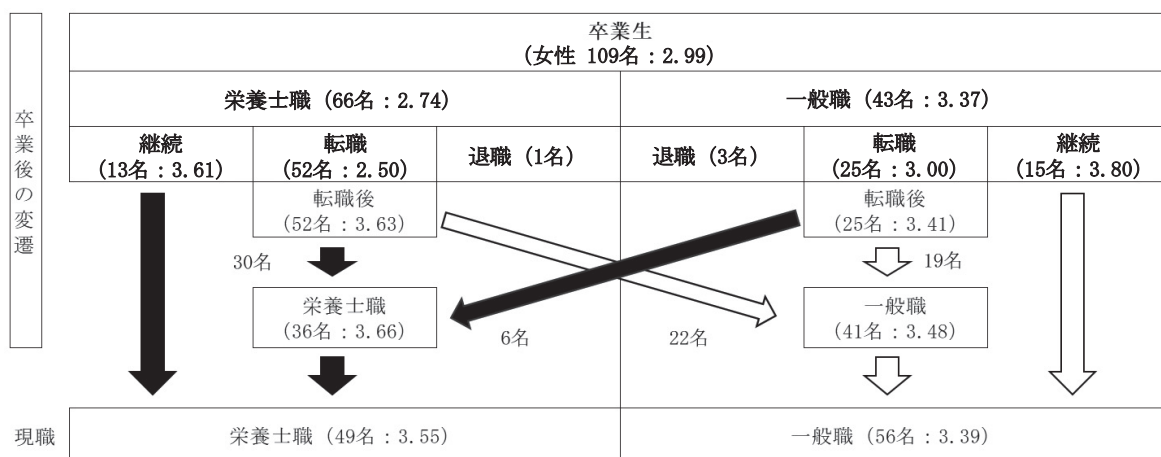


図3. 卒業生の転職と満足度

女性109名の卒業生を対象に、就職後および転職後の満足度を5点満点で評価してもらい、その平均点の変遷を図示した。（人数：満足度平均値）を示す。太字は初職での満足度を示す。

3-(3) 卒業生からの本学科への提言：卒業生からの本学科への提言について、(1)～(15)の内容について質問をおこなった（女性109名対象）。自由筆記に関する回答はChatGTP 3.5を用い、テキストマイニングによる要約を行った。

- (1) 本学科で取得した資格を教えてください（複数選択可）：栄養士を取得したのは107名であった。民間資格であるフードスペシャリストおよびフードサイエンティストの資格が導入されたのは2009年から、日本茶アドバイザーは2010年からである。今回のアンケートではこれら民間資格の取得可能者の母数がわからないため、これらの資格取得者数だけを示す。フードスペシャリスト23名、フードサイエンティスト21名、日本茶アドバイザー12名。
- (2) 本学科以外で取得した資格はありますか？（複数選択可）：管理栄養士22名、調理師14名、書道師範2名、総菜管理士2名、看護師2名。以下は1名：介護福祉士、第二種衛生管理者、保育士、アレルギー認定栄養士、サービス管理責任者、フードコーディネーター、ホームヘルパー一級、医療事務、患者給食受託責任者資格、食育アドバイザー、食生活アドバイザー、登録販売者、毒物劇物管理者、薬膳アドバイザー、幼児食インストラクター、離乳食・幼児食アドバイザー、TESOL、等。
- (3) 栄養士の資格を取得して良かったですか？：良かった84.4%（92名）、どちらでもない12.8%（14名）、取得してない2.8%（3名）。
- (4) 問(3)の理由をお聞かせ下さい：この質問は自由筆記であるため、ChatGTP3.5による要約を行った。ChatGTP3.5に出した命令文にあたるタスクや自由筆記の原文はリンクを参照のこと。表1. にChatGTPの要約を示す。

表1. ChatGTP3.5による栄養士の資格を取得して良かった理由(自由筆記)の要約

<https://chat.openai.com/share/c09f5647-c85e-4eb2-8d9a-b586d5372aab>

○これらのデータから導き出せることはいくつかあります。被験者たちが栄養士の資格を取得して良かったと感じている理由は多岐にわたりますが、主な要因は以下の通りです。

1. **専門性と知識の活用**：多くの被験者は、自身の専門知識や得意分野を活かせると感じています。例えば、「自分の得意なことを活かせると思うので」や「生活する上で知識がいかせる」などが該当します。
2. **職業選択の拡大**：資格取得により、就業先の選択肢が広がり、転職がしやすくなったと感じる人がいます。「手に職をつけられたから」や「仕事に役立っているの」がこれに該当します。
3. **職における自信**：資格保有により、自信を持って仕事に取り組めるという意見も見られます。例えば、「資格があることで仕事の選択肢が増えること、資格を取得したことで自信が持てる」といった感想があります。
4. **安定した収入と雇用**：資格手当が付くことや、栄養士としての仕事で安定した収入をもたらすという意見も見受けられます。
5. **生活全般での活用**：栄養士の知識が日常生活や子育てにも役立ち、幅広い分野で応用できると感じている人がいます。

○総じて、栄養士の資格取得は個々の専門性や知識を活かし、職業選択肢を広げ、安定感のある仕事に就く手段として評価されています。

- (5) 管理栄養士資格を持ってない方にお尋ねします。管理栄養士資格を取得したいと思いますか？：
はい（受験準備をしている）3.4%（3名）、はい（受験準備はしてない）31.0%（27名）、管理栄養士の受験資格がない19.5%（17名）、いいえ46.0%（40名）。
- (6) これまでに取得した資格で、取得してよかった、もしくは仕事で役立ったものはありますか？（複数選択可）：栄養士78.5%（84名／取得者107名）、管理栄養士95.5%（21名／取得者22名）、調理師57.1%（8名／取得者14名）、フードスペシャリスト8.7%（2名／取得者23名）、フードサイエンティスト10.0%（2名／取得者20名）、日本茶アドバイザー16.7%（2名／取得者12名）。取得して良かった、役立ったと思える資格がない10.1%（11名／109名）。この結果から、栄養士、管理栄養士、調理師などの国家資格は取得して良かったという意見が多いが、その他の民間資格に関しては取得してもその有効性を実感できていないと考えられる。
- (7) 本学科で取得できたらよいと思う資格はありますか？（自由筆記）：管理栄養士13名、調理師9名、食生活アドバイザー5名、簿記4名、栄養教諭3名などの意見が見られた。
- (8) 本学科を卒業して良かったと思っている：はい84.4%（92名）、いいえ0.9%（1名）、どちらでもない14.7%（16名）。
- (9) 4年制大学を卒業するべきだったと思っている：はい24.8%（27名）、いいえ35.8%（39名）、どちらでもない37.6%（41名）、無回答1.8%（2名）。
- (10) 本学科の良い点はなんでしたか？（自由筆記）：表2. にChatGTPの要約を示す。

表2. ChatGTP3.5による「本学科の良い点はなんでしたか？」（自由筆記）の要約

<https://chat.openai.com/share/9f4aa934-cafe-410c-b7be-9f0077a9680b>

○このアンケートデータを見ると、被験者たちは短大の食物栄養学科に対して肯定的な意見を持っています。学科の良い点に関して、以下の傾向が見受けられます。

1. **学科の雰囲気と先生のサポート**：多くの被験者が、学科が和気あいあいとしており、先生が親身になってサポートしてくれるという点を強調しています。また、優れた先生方が学生たちを導いていることが評価されています。
2. **学費と通学の利便性**：学費が他の学科よりも低いことや、自宅から通学しやすい環境が良い点として挙げられています。
3. **クラス制度と仲間関係**：クラス担任制やクラス制度によって、同級生と仲良くなりやすい雰囲気があり、友達との絆が形成されやすいとされています。
4. **資格取得と実践的な学び**：多くの被験者が、栄養士の資格が取得できることや、実習やフィールドワークが豊富で実践的な学びがあることを評価しています。
5. **学科の特長や先生の専門性**：学科ごとの特徴や、尊敬できる先生がいたことが重要なポイントとして挙げられています。

(11) 本学科の改善点は何だと思いますか？（自由筆記）：表 3. にChatGTPの要約を示す。

表 3. ChatGTP3.5による「本学科の改善点は何だと思いますか？」（自由筆記）の要約 https://chat.openai.com/share/d859a61a-c1be-44c6-bfa1-16084b0640fd ○このアンケート調査から得られる主な意見や傾向は以下の通りです。 1. 大量調理実習の不足：複数の回答者が大量調理実習が少なかったことを指摘しています。 2. 就職活動の不足：2年制度の短大では早い段階から就職活動が始まり、余裕がなかったとの指摘があり、4年制度でじっくり学ぶ機会があればよかったとの意見があります。 3. 通学の不便さ：通学の不便さやバスの本数が少なかったという声がいくつか挙がっています。 4. 栄養士としての知識の深化：病院食についての詳細な知識や病態ごとの食事についてもっと学びたいという意見があります。 5. 就職先の制約：栄養士のみでの就職先が限られると感じる回答者もあり、他の資格も取得しやすい環境が求められています。 6. 学科の中途半端さ：栄養士のための資格取得では中途半端に感じる声や、管理栄養士資格が取得できるようにする提案があります。 7. 学科の施設や設備の改善：ロッカーの狭さや実験室の古さ、施設設備の向上が求められています。 8. コミュニケーションと相談の不足：学外実習の希望を取り入れてほしいとの声や、就職に関する相談が足りなかったとの指摘があります。 9. 学科の特色やアピールの不足：学科の特色やアピールが不明瞭であると感じる声や、4年制の大学との連携が不足しているとの指摘があります。 ○これらの意見や傾向は、食物栄養学科の改善点や課題を明確に示しています。これを踏まえ、将来の改善やプログラムの充実に向けて検討することができます。

(12) ご自身のお子様、友人・知人のお子様に本学科への入学を勧めますか？：はい58.7%（64名）、いいえ41.3%（45名）。

(13) 問(12)の「いいえ」の理由をお聞かせ下さい（自由筆記）：表 4. にChatGTPの要約を示す。

表 4. ChatGTP3.5による「本学科への入学を勧めない理由」（自由筆記）の要約 https://chat.openai.com/share/d3a667b3-a913-483a-82dd-295890fdb5e7 ○このアンケートデータから得られる主な傾向は以下の通りです。 1. レベルの低さへの不満：複数の回答者が「レベルが低い」と感じており、これが本学科に対する不満の一因となっています。また、大卒が必須とする回答もあります。 2. 就職の不安：就職の弱さが複数回答で挙げられており、これが進学をためらわせている要因です。 3. 経済的な要因：学費が高いと感じる回答者が多く、これが進学をためらう理由となっています。また、栄養士の給料が低いことに対する不満も見受けられます。 4. 学科の特色や魅力の不足：特色や魅力がないと感じる回答が散見されます。これが学科の魅力を感じにくくしている可能性があります。 5. その他の理由：恥ずかしいと感じる、通学が大変などの個別の理由もあります。また、他の分野を志望する、別の夢があるなど、個々の進路や志向が影響を与えていることも分かります。 ○総じて、学科の評判や将来への不安、経済的な要因が学科への入学をためらわせているようです。改善点としては、学科のレベル向上や特色の強化、就職支援の充実、学費の見直しなどが考えられます。また、学科の魅力を十分に伝えることも重要です。
--

(14) 本学でもっとも思い出深い事柄は何ですか？（自由筆記）。表5. にChatGTPの要約を示す。

表5. ChatGTP3.5による「本学でもっとも思い出深い事柄は何ですか？」（自由筆記）の要約
<https://chat.openai.com/share/0f190133-1f36-4d65-b69d-08059745fbf3>
○これらの回答からテキストマイニングを行うと、短大の食物栄養学科の卒業生が最も思い出深いと感じる経験にはいくつかの共通の要素が見られます。

1. **調理実習**：多くの学生が調理実習に関する思い出を挙げており、中でも「100食実習」が頻繁に言及されています。この実習は楽しかったり挑戦的だったりするようです。
2. **学園祭や文化祭**：学生が協力してイベントを企画・実施した経験が、思い出深い瞬間として挙げられています。これには販売活動やボランティア活動も含まれています。
3. **先生との交流**：いくつかの回答では、先生方との交流や先生の励ましについて触れられています。先生の指導やコメントが学生にとって重要な経験であったことが伺えます。
4. **ボランティア活動**：障がい児を対象としたボランティア活動や地域との連携が印象深い瞬間として挙げられています。
5. **学外活動**：学外での実習や研修旅行が特別な思い出として挙げられています。海外での研修旅行や地域への訪問が含まれています。
6. **学生同士のつながり**：友人や学友たちとの関係が重要で、終生続くであろう友情ができたことが挙げられています。
7. **試練や苦労**：調理実習で怒られた経験や難しいテストについての言及があり、それを克服したことが良い思い出として残っています。

○短大生活は、学業だけでなく、実地経験や人間関係の構築が思い出深い瞬間を作り出す一翼を担っていたようです。

(15) OGとして在校生に伝えたいことは？（自由筆記）：表6. にChatGTPの要約を示す。

表6. ChatGTP3.5による「OGとして在校生に伝えたいこと」（自由筆記）の要約
<https://chat.openai.com/share/1c0c731c-b033-4db6-a39d-e37808cc5ce3>
○このアンケートデータからは、卒業生たちが在校生に対して様々なアドバイスやエクスペリエンスを共有していることがわかります。テキストマイニングの結果、以下のポイントが浮かび上がります。

1. **資格取得の重要性と挑戦の勧め**：多くの回答者が栄養士の資格取得を勧め、特に学生時代に取得することの重要性を強調しています。一部は管理栄養士の資格も言及しています。
2. **学生生活の充実とバランス**：学業だけでなく、サークルや友達との交流、大学生活を充実させることが後悔のない大学生活の一環とされています。
3. **実務経験やボランティアの重要性**：外部活動やボランティアへの積極的な参加が、就職活動において役立つとの経験が述べられています。特に食育ボランティアや企業の安全・健康に関する活動が強調されています。
4. **就職活動への準備と支援**：就職活動においては早い段階からの取り組みが求められ、就職支援室や先輩のアドバイスを活用することが成功へのカギとされています。
5. **後悔のない選択と自己成長**：自分の目標ややりたいことに向かって積極的に挑戦し、知識や経験を広げていくことが、将来の後悔を避ける鍵だと述べられています。
6. **コミュニケーションスキルの重要性**：就活においてはコミュニケーション能力の向上が重要であり、質問することや自ら積極的に情報を吸収する姿勢が勧められています。
7. **人間関係の大切さ**：先輩や先生、仲間とのコミュニケーションを大切に、不安や悩みを共有せずに進学することが強調されています。

○総じて、栄養学科卒業生たちは、自身の経験を通じて在校生に向けて様々なアドバイスを提供し、将来に向けた成功への道しるべを示しています。

4. まとめ

今回の回答から、84.4%が栄養士資格取得に満足しており、46.6%が現在も栄養士として活躍していた。しかしながら、栄養士初職での満足度が低く、心身の負担および収入の低さに不満がある

ことがわかった。今回の結果では、栄養士初職の約9割が委託給食・給食関連業であり、就職先に偏りがある。より多くの食品関連の業種（例：食品製造・品質管理、商品開発、フードビジネス、観光など）への就職をサポートするカリキュラムや就職活動支援が必要ではないかと考える。管理栄養士資格を取得した卒業生に関しては、その資格の評価が高く、同時に本学科を4年制大学にして同資格を取得できるようにするべきであるという意見も散見した。全国的に短大への入学者が減少している一つの理由として、大学入学志願者の総数が4年制大学の定員と並ぶことがあげられる。また、4年生大学のほうが卒業後の就職活動に有利であったり生涯賃金に差が出ることが認知されているためではないかと思われる。本研究でも卒業生の約25%が4年生大学を卒業するべきであったと回答しており、4年制大学化については検討すべき課題だと考える。

卒業後に調理師資格を取得し、それを評価する者も6割弱ほどいた。調理師は国家資格であり、その需要や信頼も高いことが考えられる。調理師資格は2年間の実務経験により受験資格を得るため、就職先の業種によっては取得が可能である。ただし、調理技術を向上させる意味でも調理師受験資格を取得できるカリキュラムの検討は意味のあるものと思われる。3種類の民間資格に関しては、取得者数が少ないこともあるが、その資格を評価する意見は少なかった。これは、資格を生かす業種についている卒業生が少なく、得られた知識を活用する場面がないこともその理由として考えられる。静岡の地元食品企業と連携し、多様な就職先の開拓が必要であるように考える。

卒業生から提言には、賛否両論の意見があった。表3および4の改善点をまとめると以下のようになる。①栄養士としての技量・知識の深化 ②就職活動、就職先の選択肢、サポートの充足 ③就学環境・設備の充実 ④学科の特色・魅力の創生（ブランディング）⑤発信力の強化。厳しい意見としては「恥ずかしいほどのレベルの低さ」というものもあり、この点を改善していくには上記5項目を粛々と進め、人々から望まれる学科に変えていく以外に方法がないと考える。改善を進める上で、卒業生の声は重要かつ効力があり、特に卒業生による本学経営陣への直接的な提言がもっとも有効であると考え。肯定的な意見は様々あり、卒業生の各々がそれぞれの学びや思い出を作って卒業したことを大変素晴らしいと感じつつ、それを継続することが重要と考える。

最後に、本研究が長い歴史を持つ本学科を存続させる一助になることを切に願う。

参考文献

- (1) 「過去最大53.3%の私立大学が定員割れ、私立短大は92.0%が定員割れに」 <https://univ-journal.jp/234032/>
- (2) 【令和2年度】静岡県立大学キャリア・就職支援等に関する卒業生調査報告書 <https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/career/employment-records/survey/>
- (3) 2021年度 立命館アジア太平洋大学 卒業後調査 https://www.apu.ac.jp/home/about/content248/AY2021_Result_of_Survey_J.pdf
- (4) 効果的な「卒業生調査」の方法とは <https://www.riasec.co.jp/hiroba/archives/22452>

謝辞：本研究へのご協力、誠にありがとうございます。卒業生の皆様に心より感謝申し上げます。今後も引き続き、本学科へのご支援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

